

令和2年度 農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立市来農芸高等学校

1 目的

農業関係機関・団体との連携を促進し、農業先進地視察等を行うことで、本校生徒が、農業に対する興味・関心をより一層深め、広い視野と知識を身に付けるとともに、将来的には、農村社会を支える人材の確保につなげることを目的とする。

2 実施状況

(1) 1年生先進地視察研修

本県における農業の実態や農政の現状を学習し、将来新規就農者及び地域産業の担い手を育成するために、JA さつま日置北中部営農センター、鹿児島県立農業大学校、片平観光農園の施設見学を行った。そのことにより、農業に関する知識を深めるとともに就農に対する意識が向上した。



片平観光農園視察（イチゴ栽培）

(2) 2年生先進地視察研修

1年次の専門教科での実験・実習などの学習成果を踏まえ各学科での視察研修を行った。

農業経営科では、市圃農園や東花園においてトマトや花の栽培技術について学ぶことができた。

生物工学科動物類型では肉用牛研究所や（株）だいちにおいて種雄牛の改良や飼育技術、畜産経営等について、植物類型では清水農園や寿峰苑において胡蝶蘭等の栽培技術等について学ぶことができた。

各学科において先進的農家や企業を視察することにより、高度な知識や技術を高め、日頃の授業や実習に活かすとともに進路実現に役立てている。



市圃農園視察

（トマトフェンローハウス栽培）

(3) 営農の門出を励ます会

今年度の卒業生は、農業大学校に12名、農業系の4年制大学に3名、農業専修学校に1名進学し、農業関連企業に5名就職する事が決まっております。その21名を対象に励ましの会を実施した。市長をはじめ、多くの来賓の方々より激励のことばを頂き、生徒たちは決意を新たにしました。



（株）だいち視察

3 今後の課題、取組

本校は、在校生の約9割が非農家の生徒であるが、日頃の専門教科の学習や地域連携活動の成果もあり、入学してから農業に対して興味・関心が高まる生徒が多い。今後も生徒のニーズを踏まえた専門性の高い学習を取り入れて、生徒の進路実現に資するよう取り組んでいきたい。



営農の門出を励ます会